

令和 5 年度 ICT を活用した授業改善研究校報告書 中野東小学校

1 学校の課題

令和 4 年度までの研究の結果、教師や児童の技能の向上もあり、45 分間の授業を行う際に、ICT をスムーズに使うことができるようになり、授業のねらいを達成するためのツールとして、ICT を使う時間とそれ以外の時間をバランスよく取れるようになった。また、ICT を使って情報を共有する際、発問を工夫したりワークシートを活用したりすることにより、児童一人一人の思考を広げたり深めたりすることができるようになり、共有したことで表現力が伸び、個人の成長を感じることもできた。

一方、ICT を取り入れて授業を行うと、教師主体で授業が進んでしまうという課題が見られた。令和 4 年度全国学力・学習状況調査では、「5 年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という問いに対し、肯定的に答えた児童の割合は 74% で全国平均より約 3% 低く、また、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につながる事ができていますか」という問いに対し、肯定的に答えた児童の割合は 74% で、全国平均より約 4% 低い結果であった。

児童が受け身にならず、自ら ICT を活用したり伝え合ったりすることを通して、課題解決に取り組むにはどうしたらよいのか、児童主体で学びを深めていく方法を研究する必要がある。

2 研究主題

主体的に学び、自分の考えを伝え合う子どもの育成
～教科指導における効果的な ICT 活用を通して～

3 取組内容

(1) ICT を活用した授業実践を行う。

- 各学年で ICT を活用した授業を公開する。
- 理論研修を行い、「主体的な学び」についての理解を深めるとともに、児童の主体的な学びを促すための ICT の活用及び伝え合う活動の充実を図る。特に高学年については、ICT を使用する際には、学習のゴールを示した上で、使用方法を児童に任せる場面を設定する。また、学習の記録を残し、児童がいつでも振り返ることができるようにする。
- 研究推進委員会を月 1 回開催し、推進委員を中心に ICT を活用した授業実践について情報交換を行うとともに、研究を進めていく。
- 月に 2 回のミニ研修を行い、ミライシードや Google Workspace の各種機能について操作しながら理解を深める。

(2) 児童の ICT 活用能力の向上を図る。

- ・ タブレット端末の操作技能を育成するために、年間実践プランを作成する。(右 QR コード) また、実践プランを基にして指導することで情報活用能力を系統的に育成できるようにする。
- ・ 毎日タブレットタイムを設け、各種機能に慣れたり、タイピング能力の向上を図ったりする。
- ・ 全学級で、週に1回以上タブレット端末を活用した授業を行う。
- ・ タブレット端末の日常的な持ち帰りを行い、児童が家庭でも自主学習などに活用することができるようにする。例えば生活科や家庭科などの話し合い活動を充実させるために、事前に家庭で活動している様子を動画で撮影してくるなど、伝え合う活動を充実させるためにタブレット端末を活用することができるようにする。



4 検証結果

児童アンケート	7月	12月
見通しをもち、粘り強く学習に取り組んでいる。	90.1%	88.1%
自分が考えたことや思ったことを表現し、伝え合うことができた。	86.6%	89.5%
友達と思いや考えを伝え合うことで、新しいことに気付いたり、自分の考えをよりよいものにしたりすることができた。	88.1%	90.9%

教職員アンケート	7月	12月
タブレットを活用した授業を週1回以上行っている。	76.9%	100%

児童アンケートの結果から、最後まで粘り強く課題に取り組む習慣が身に付いてきており、各学年において指導されていることが習慣化につながったと考えられる。児童が見通しをもって学習できるように、教師が授業や単元の計画を立て、導入や課題提示の方法を工夫していることも結果につながったと考えられる。また、伝え合って終わりではなく、伝え合う意味を理解している児童が多いことから、教師が意図をもって、意味のある場面や課題を設定し、伝え合う活動を取り入れてきた結果であると考えられる。

5 研究成果

<成果>

- ・ 主体的な学びにつながる ICT の活用方法を具体的に理解することができた。
- ・ 1年生の生活科「かぞくにこにこ大きくせん」などで動画を活用した授業実践では、家庭との連携が図れたり、学習の質を高めたりすることができた。動画が学習の教材になり、学習意欲の向上だけでなく、自分自身の姿を振り返って次の学習に生かすという主体的な学びにもつながった。
- ・ クラブルームを活用して資料を配付するという授業実践では、写真や動画、インタビュー記事などから自分で資料を選択して活用することで、主体的な学びにつなげることができた。
- ・ スライド等を活用することで、学びの過程を記録したり、蓄積したりすることができ、児童が自分の成果や課題を自覚することができた。また、タブレット端末を家庭に持ち帰ることで、児童は発表資料等を家庭でも準備することができるようになり、授業時間内に作成できなかった児童が家庭で作業することができたり、発表資料の内容をより良いものに修正できたりできたことで、学習内容を充実させることにつながった。
- ・ 学習のまとめの場面でタブレットを活用することにより、児童が自分に合った方法で学習をまとめることができるようになった。



<課題>

- ・ 児童が自分で学習方法を選択する際、自分に適した方法で学習を進めることができるように、低学年の時から、タブレットの様々な機能を経験し、積み重ね、活用の幅を広げておく必要がある。
- ・ ICT を使うことにより、児童主体の学習に近づくことができたが、学習の進め方には個人差があり、その個人差を埋めるための手立てを考える必要がある。

教職員 ICT 活用サイト



教職員 ICT 活用サイトには、授業での実践事例だけでなく、iPad 活用年間実践プランなど校内で使用していた資料も掲載しております。ご参照いただき、参考としてご活用ください